

99-1 桜と菜の花の（幸手）権現堂桜堤へ （5.0km）



権現堂桜堤

権現堂桜堤にはソメイヨシノが約1,000本。堤周辺には約5haにわたり菜の花も作付けされている。桜堤の上が約1kmの桜の花のトンネルになっていて、堤の下に一面の菜の花畑が広がり桜と見事な色の調和を見せる。

【道順】

幸手駅→権現堂桜堤→権現堂公園→幸手駅

【街歩き解説】

・権現堂堤

桜で有名な権現堂堤ですが、「桜の季節が終わってからも四季折々に咲く花を」という思いから、あじさい、曼珠沙華（彼岸花）なども植えられている。

・順礼の碑

権現堂堤の中央には、「順礼の碑」や「供養塔」が建っている。そのいわれは以下の通りである。

享和2年（1802年）、長雨が続き堤が切れ、幾度修理しても大雨が降りだすと一夜のうちに切れてしまうというありさまであった。ある時、堤奉行の指図で村人達は必死の改修工事をしてしたが、大被害と続く工事の疲れに、口をきく元気さえも失っていた。その時、夕霞のかかってきた堤の上に母娘の順礼が通りかかったのである。母順礼が堤の切れ口をのぞきこんで、「こうたびたび切れるのは、竜神のたたりかもしれない。人身御供を立てな

ければなるまい。」と言いました。そこで、堤奉行は「誰が人身御供に立つものはいないか。」と人々を見渡したが、誰も顔を見合わせるだけで、進んで私になるという者はない。すると重苦しい空気を破り誰ともなく「教えたやつを立てろ。」という声があがった。母順礼はこの声を聞くと、「私が入柱になろう。」と念仏を唱えて渦巻く泥水の中に身をおどらせたのである。これを見た娘順礼もあつというまにその後を追った。すると不思議にもそこから水がひいて、難工事もみごとに完成することが出来たという。

この順礼母娘を供養するため昭和11年に石碑が建てられ、この碑には明治時代の日本画家結城素明による母娘順礼像が刻まれている。

・ 勅使門のある聖福寺

旧日光街道沿いに今も残るは菩提山東皐院と号し、浄土宗知恩院の末寺として応永年間(1394~1428年)に開山したと伝えられている。

江戸時代には將軍の日光社参の折りと、東照宮例大祭に天皇の代理で参拝した例幣使の帰路の休憩所に用いられ、山門は唐破風四脚門で將軍と例幣使以外は通行できなかったとされている。

さらに、阿弥陀如来を本尊とし、運慶の作と伝えられる観音菩薩像が祀られ、境内には漢学者金子竹香の碑などが建てられている。

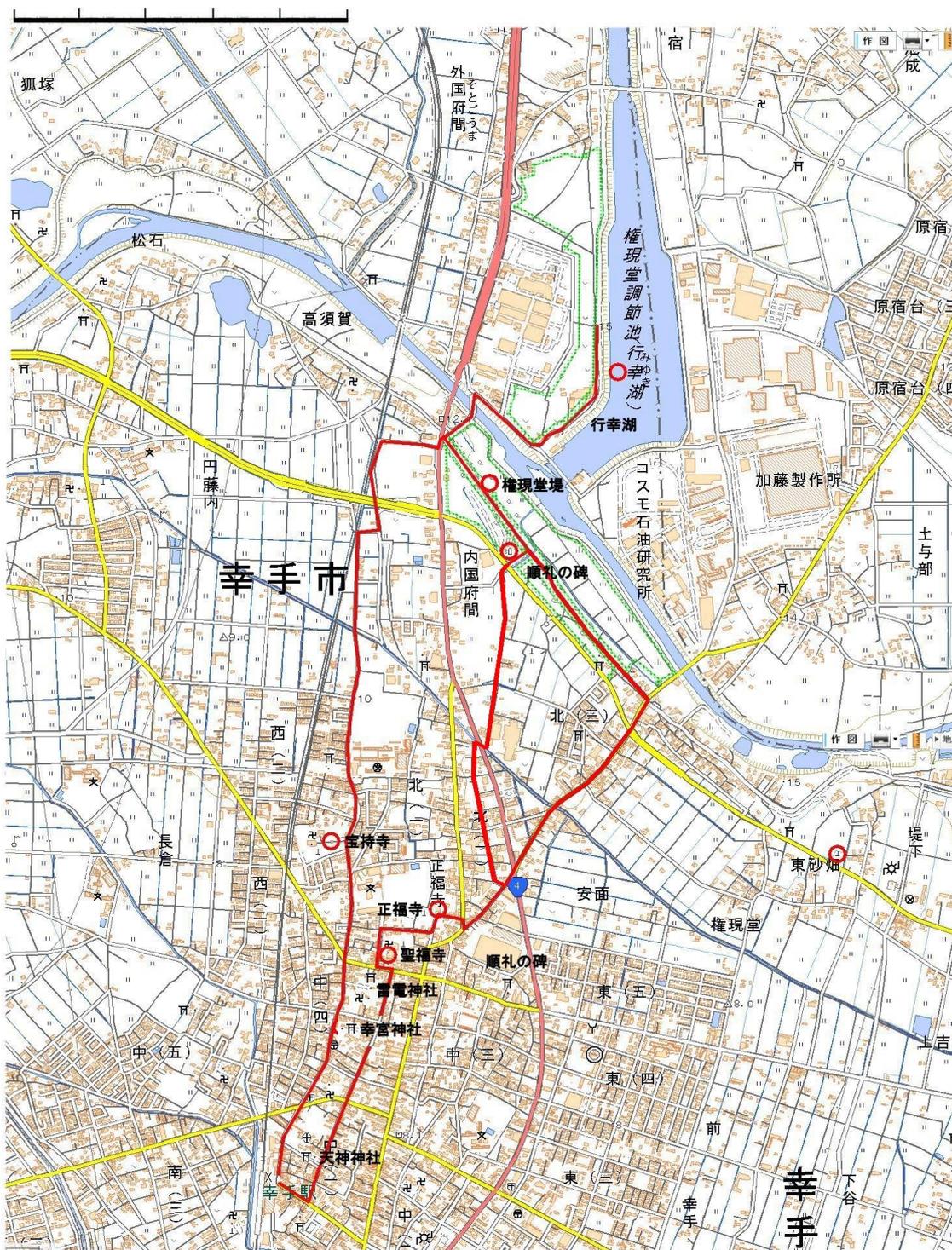
・ 義賑窮飢の碑

義賑窮餓之碑は正福寺の境内にある。

天明3年(1783年)の浅間山の大噴火によって火山灰が厚く積もり、大飢饉が発生した。翌4年春には飢え死にする人が増えたので、幸手宿の豪商21人が金銭・穀物を出し合い、幸手の民を助けた。

このことが代官伊奈忠尊に聞こえ、21人と里正(名主)は陣屋に呼ばれ褒賞を受けた。この善行を讃え後世に伝えようとこの碑を建てたものである。

コースマップ



**** オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu ****